

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 7月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100264		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホームもえぎ野		
所在地	広島市安芸区船越南3丁目23番6号 (082) 822-8181		
自己評価作成日	平成26年5月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成26年6月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切にし、スタッフも生活歴を知った上で、各入居者の心に寄り添うケアを実践しています。また、入居者の心が動いた時に、すぐに行動ができるように心掛けています。一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいる。理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え、色々な場面において、自分の親や祖父母だったらどうするだろうかと常に自分自身に問いかけ、もえぎ野が入居者様の「家」に近づけるように日々努めている。地域とのつながりを大切に考え、保育園などと一緒に行事を行うなど、地域との触れ合いに努めている。また、家族会を通じて、家族と一緒に入居者様の生活を支えて行けるように日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームもえぎ野（以下、ホーム）は、国道近くの準工業地域に位置し、近隣に区役所やスーパーマーケットなどがある利便性の良い場所にあります。近くに系列の介護施設があり、相互に協力し合いながら運営されています。

ホームでは、法人理念を基本に全職員で話し合い、ユニット目標を掲げ、入居者一人ひとりの思いを共有しながら笑顔と温もりのあるケアに努められています。毎年、ユニット目標の振り返りを兼ねて評価し、見直されています。

また、26年度は入居者の希望による個別外出を計画し、実施されています。

代表者は、介護福祉士、介護支援専門員の資格取得のための勉強会を開き、講師を職員が務めることで職員のスキルアップとともにチームワークづくりにも繋がられています。法人では、外部研修への職員の積極的な参加を支援し、人材育成に努められています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔とぬくもりの中でそして家族として・・・」という法人理念をもとに、毎年ユニット目標を作り管理者と職員は実践し年度末には目標の評価を行っている。	法人理念を基本とし、全職員で話し合いユニット目標を掲げ、毎年振り返りを行われています。また、職員一人ひとりが目標を立て、6か月ごとに管理者と面談が行われています。訪問日は、入居者と職員の笑顔ある和やかな様子から、理念の浸透が伺えました。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の行事やお祭りなどに参加することや散歩等、又地域の美容院への散髪などの外出で地域の人々との交流に努めている。	町内会に加入されています。開設前に、地域住民に説明会を開いたり、日常生活の中で挨拶を交わしたり積極的に交流されています。節分会や餅つき行事に近隣の保育園児の訪問があります。また、散歩の途中に立ち寄りたり、クリスマスには職員がサンタクロースとなって園を訪問したりするなどの交流が行われています。今後、地域住民に継続してボランティア訪問を依頼できる関係を築きたいと考えられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーとして地域の方に認知症について理解してもらうように活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様から助言を頂くなど、サービス向上に努めている。	家族代表、入居者、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員の参加があります。日程が合えば近隣のスーパーマーケットの店長も参加されます。会議では、写真を見ながら運営状況の報告や事故報告、地域の情報交換をされています。出席者から事故記録をデータ化することで予防できる旨の意見があり、データ化を進められています。	今後は、代表以外の家族が運営推進会議に参加できるよう日程などを工夫し、ホームの取り組みをより理解してもらいながら、意見や提案をもらう機会を増やされることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。	運営推進会議に区役所担当者の参加が年1回あります。オレンジアドバイザーの資格を持つ職員が在籍し、地域包括支援センターの依頼により講師を務めるなどの協力をされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に全体会議等で、身体拘束についての勉強会を行うことで、職員全員が身体拘束をしない取り組みを実践している。玄関など施錠は行わず、チャイムなどで対応している。徘徊の方などおられたら一緒に外に出るなど対応している。</p>	<p>年に1～2回研修されています。ビデオを見てグループワークをしたり、虐待報道があった時などは身近な問題として勉強会を行ったり、身体拘束をしないケアについて理解を深められています。職員は、否定しない言葉かけ、穏やかな口調での会話などを意識し、拘束によるストレスなどのデメリットを共有し、身体拘束をしないケアに努められています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>会議にて、虐待の防止について、研修。話し合いを行い、日々の生活の中で身体に傷などが無い様に注意している。また、傷などを発見した時には、記録を残し職員間で共有して原因究明や再発防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在入居されている方に、成年被後見人の方がおられる。また、その他の方にも成年後見人制度を利用した方が良いのではないかとという人もおられる。ご家族に制度の説明などを行い利用してもらえるように支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>もえぎ野を事前に見学して頂き利用者の家族の不安や疑問を言っていただき十分な説明や理解納得を図って契約をして頂くようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を発足し、家族会を通して要望等と言って頂ける体制作りをしている。また、直接要望などと言って頂くように契約時にも話をしており、意見・要望があればできるだけすぐに改善するようにしている。</p>	<p>家族会を年1回開催し、意見交換や薬についてなどをテーマに勉強会が行われました。事故報告のデータ化について家族会会長から提案が出され、運営に反映できるよう進められています。また、年4回ホーム便りを送り、入居者の様子を伝えておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、会議を開き、また茶話会などで管理者に話をするなど意見交換をしている。日頃から不満・苦情など気軽に話が出る様に、職員とコミュニケーションを図っている。	管理者は、職員とのコミュニケーションを図る機会を設けておられます。月1回の茶話会や、週1回のミーティングで意見交換が行われ、気軽に意見や提案が言える環境を整えておられます。また、職員ごとに個人目標を立て、管理者は6か月ごとに面談を行い意見を聞かれています。ケアに関する意見が多いですが、出された意見や提案は運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てるように、ユニットの年間目標及び個人の目標を作成している。行きたい研修を聞き希望に沿った研修に参加出来る様にしている。一昨年度より、人事考課制度を導入し、職員のやる気を出せる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。職員の興味がある研修を聞き、希望に沿った研修を受けられる。自主勉強会として、介護福祉士・介護支援専門員勉強会・料理研修なども行い職員を育てる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	広島県グループホーム協会事業者交流会に参加し、他施設とも積極的に交流を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時から職員にご入居者の情報を話し統一した対応が出来るように努めている。また、要望等あれば耳を傾け信頼関係づくりに努めご家族様ともどもコミュニケーションを取り安心して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前に事前訪問したり、事前にホームに来てもらい、説明を行うなかで、現在家族が困っている事等を聞くようにしている。入居されてからも、しっかり家族と会話をする事で関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用前に本人・家族より話を聞きアセスメントをしたうえでサービス内容を検討している。また、定期的にスタッフとも話し合いを行う事で、今必要なサービスの検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事をしたり行事などを行い、家族としての気持ちを持って接している。また、出来る範囲で家事を手伝っていただき暮らしを共にする者同士として役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	いつでも面会に来てもらい、家族の方と絆を大切にしている。家族会などで、一緒に行事に参加してもらい会を盛り上げてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人からの手紙や電話でのやり取りを大切にしている。(あまり手紙や電話のやり取りはない)知人・友人の面会も自由に来て頂くようにしているが、現在あまり来られていない。	家族の協力を得て、馴染みのある美容院に出かけたり、一時帰宅や墓参りに出かけたりする入居者がおられます。希望があれば、ホームでも墓参りを支援されています。携帯電話を持たれている入居者もあり、自由に電話をされています。	
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士話が出来るように職員が中に入り支援している。家事の手伝いや創作活動を一緒に手伝っていただき、入居者同士の関わりを深めることが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終わっても、相談があれば対応し、今までの関係を断ち切らない様、対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的なかかわりから、入居者個人の思いや希望を聞き、ご家族の方とも話し合い対応している。また、職員同士では週に一度のカンファレンスや茶話会などで検討の場を設けている。	担当制を設けられています。1対1の関わりの中で新たに思いや意向が分かることがあります。得た情報は、カンファレンスなどで共有されています。入居者のこれまでの経験や趣味を活かせるよう検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に本人の生活歴を家族に聞いたり、本人との会話の中で生活歴や馴染みを聞かせてもらい把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの有する残存機能について、月に一度職員同士で検討し記録することで現状の把握に努めている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング		3か月ごとにモニタリングと計画の見直し	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフや関係者の間でご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合いの場を設け介護計画を作成している。	を行い、入居者の状況に変化があった場合はその都度見直しをされます。医師、看護師から医療についての意見を聞きながら、毎週カンファレンスを開催し、介護支援専門員を中心に介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙があり入居者の状態や様子、言動など気になったことを個別ノートに記録している。カンファレンスなどに使用している。職員は業務に入る前に記録を読み情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族様の要望に出来る限り対応したサービスやケアを行えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	フルーツ演奏・化粧ボランティア等の地域ボランティアの方に月一回程度来てもらっている。地域の保育園の方にも話を行い、(餅つき会などに参加してもらっている。)地域とのつながりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週、協力医の往診がある。電話での連絡は、24時間取れるようになっている。かかりつけ医より指示があった場合は、総合病院など適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医の受診継続が可能です。その場合、通院は家族の付き添いを原則とされています。医療に関する情報を電話などで家族と共有されています。協力医療機関による往診が週1回あり、緊急時などの支援体制を整えておられます。必要に応じて歯科医の往診もあります。	
		○看護職員との協働	お、えぎ野内で看護師を確保し、日々バイト		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ひとりで介護職員を確保し、ヘルパーCKなどを行い入居者の健康状態の把握に努めている。入居者の気付きや異常時などの場合は、看護師に報告し適切な対応、指示をもらう様に努めている。早期発見・早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院の看護師としっかり情報交換を行うようにしている。入院中も面会など行い、関わりを継続する。退院後も継続してかかりつけ医と連携して治療してもらえるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期についての対応を検討しているが、今現在そのような方はおられない為実施していない。	これまで看取りの経験はありません。重度化した場合や終末期の対応については、契約時に説明されています。希望があれば、家族、主治医と相談しながら看取りをする方針です。管理者は、これまで看取りの経験がないため、対応に向けて職員研修が必要だと考えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えて訓練を行っている。(AED使用法、救急蘇生法など)現時点で職員全員が実践力を備えているとは言えない。年に1回以上研修を確保している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防火訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えている。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていないが、災害時における協定書を地域の町内会と結んでいる。	年1回は、運営推進会議と同日に避難訓練を実施し、会議メンバーに訓練内容の評価を受けておられます。消防署主催の防災訓練に職員が参加し、地域との連携に努められています。ホームは準工業地帯に位置しているため、隣の工場が夜間は不在になります。そのため、地域住民への災害訓練参加を呼びかけ、さらなる協力関係を築くよう努力されています。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が、入居者個々の特性を理解し人格を尊重する意識を持った言葉かけが出来ている。	年1回、外部講師を招き、事例を用いた研修が行われています。職員は、否定しない言葉かけを心がけ、入居者の人格を尊重した対応に取り組まれています。トイレのドアは必ず閉めることを徹底し、希望があれば同性介助で対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者によっては、希望を表したり自己決定を行ったりすることが難しい方もおられるが、思いに沿った働きかけを行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合で動いてしまうときもあるが、なるべく本人のペースで生活して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を尊重し、着替え時にどの服が着たいかを尋ねながら、選んでもらっている。また、月一回のお化粧ボランティアに来て頂き、お化粧をして頂いているが、日々の中で提供できていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日など、誕生日者より食べたい物を聞きメニューを出すようにしている。準備は中々手伝ってもらう事が出来ないので、皿、お盆拭きなど、出来る事を手伝っている。	食事は職員の手作りによるものを提供されています。訪問日は、入居者と職員が談笑しながら和やかに食事を楽しんでいる様子が伺えました。夏はそうめん流しをしたり、季節のイベントに合わせたおやつを作ったりして楽しまれています。また、寿司やうどん、ショッピングモールのフードコートで外食する楽しみも設けられています。	食事が楽しみになるよう創意工夫されています。今後は、栄養バランスについてアドバイスを受けながら、献立に反映されることを期待します。
		○栄養摂取や水分確保の支援	食事の量は、1週に1回食事量をおこな		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	長年の量は、2週に1回体重測定をおこない、管理している。盛り付けも、本人の状態を見ながら盛り付けている。水分補給は定期的に行い、水分量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声かけを行い、口腔ケアを行っている。また、歯科医・歯科衛生士に訪問してもらい、専門的な診療や口腔ケアを定期的に行ってもらい、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1日を通し、トイレに行った時間、回数など記録し、把握している。声かけを行い、トイレで排泄ができるようにしている。	排泄チェック表を利用し、入居者ごとの排泄パターンを把握されています。定時の排泄にあわせ、仕草や様子からさりげなくトイレに誘導し、自立に向けて支援されています。立位困難な入居者は、2人体制で介助したり、夜間ポータブルトイレを利用したり、一人ひとりの状況に応じて支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時、食後などは便意の有無にかかわらず、トイレの声かけを行う。食物繊維のあるものを、食事に取り入れ、便秘時には、ドクターに相談して排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調、安全を考慮したうえで、その人の希望のタイミングに合わせて、入浴を楽しんでもらえるように努めている。なるべく一日起きに入浴してもらっている。	広めの家庭風呂で個浴となっています。脱衣室にはベンチが置かれ、冷暖房が完備されています。希望により毎日でも入浴可能です。入居者の状態により、外からの見守りや、1対1の見守り、介助浴が行われています。入浴剤や、柚子湯など季節感や香りにも配慮し、入浴が楽しめるよう工夫されています。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室にはベッド、フロアにはクッションなど休息出来る場所を作り、好きな時にゆっくり休んでもらえるようにしている。夜間は居室の温度・湿度を管理し、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	配薬時に、他職員と一緒に確認を行い誤薬がないように努めている。症状の変化については、ケース記録に記入し、職員間での共有や看護師、ドクターへの報告が出来るようにしている。薬の効能や副作用について全員が理解しているとはいえない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、行事など行う事で、日々の楽しみを持ってもらえるように考えている。入居者の有する能力を活かし、家事手伝いや創作など役割を持っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人の希望を聞き、家族の方の協力のもと外出が出来るように支援している。個人外出を企画し、ご本人の希望に沿った外出が行えるように努めている。	26年度は、個別の外出計画を立て、入居者一人ひとりが希望する場所へ外出できるよう支援されています。また、花見やホテルを見に出かけるなど、季節ごとに外出されています。さらに、家族の協力を得て、野球観戦、観劇などに出かける入居者もおられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人から要望があった場合、スタッフが持ち出して使用している。ただ入居者1人で使ったり、所持したりしてはいない。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から要望があれば、ご家族に電話を出来るように取り組んでいる。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	各居室の前、トイレなどには手作りの表札をかけたリ、季節感を感じられる様に掛け軸をかけ、一緒になって飾りの創作などを行っている。	広々とした清潔感のある共用空間です。季節の花が飾られ、壁には入居者の笑顔の集合写真が飾られています。テーブルやソファが置かれ、入居者は思い思いにゆったりと過ごされています。職員との会話を楽しむ入居者もあり、和やかに過ごされている様子が伺えました。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファやテーブルを置き、入居者同士がゆっくり話が出来るように、努力しているが、共用空間に、独りになれる空間はないのが現状。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家で使っていた家具などをそれぞれの居室に置き、自分が家にいるような空気作りを行っている。	居室入口に職員の手作りによるネームプレートが掛けられています。居室には、エアコン、ベッド、カーテンが備えつけられています。入居者は使い慣れた家具を持ち込み、人形や写真など、好みの物や思い出の品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	入居者が出来る所は、出来るだけ自分でやって頂いているが、時々それが出来ない事がある。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔と温もりの中でそして家族として・・・」という法人理念があり、ユニット目標、個人の目標を立て、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行われる行事などに積極的に参加して地域の方々との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーとして地域の方に認知症について理解してもらうように活動している。また、運営推進会議などで、地域住民に活動内容を話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様へ助言を頂き、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。		
		○身体拘束をしないケアの実践			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議で、身体拘束をしないケアについて、職員の意識統一を図っている。日々拘束は行わない事を職員全体が認識して身体拘束をしないケアにあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体会議にて、虐待についての勉強会を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度をご利用中の入居者がおられる。他の入居者の方の中に現在検討されている方がおられる。職員は成年後見人の制度を理解していない職員がいる。今後、会議にて成年後見人制度について理解し活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に、見学をして頂き契約内容の説明を行い、不安や疑問点を聴き納得してもらい契約を行うように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	開設当初より家族会を発足している。家族会総会や・勉強会を通じて要望を聞き運営に活かしている。		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、会議を開いており、また、週に1回ミーティングを行い意見交換をしている。日頃から気軽に話ができる様に、職員とコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年間目標、個人目標を決めて、各自が向上心を持って、やりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各個人の希望の研修に参加し全体会議にて研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	広島県グループホーム協会事業者交流会に参加し研修を通じて積極的に交流をもっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	積極的にコミュニケーションをとり本人が困っている事、不安な事はしっかり聞き安心できるように心がけている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っている事、不安な事があれば話し合いを行い、問題点を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族と入居者が必要と思っている支援を尊重し、よりよい支援やサービス利用を含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしやすいような環境を作ったり、介護を行う際も理念に則り家族として思いやりを持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が困っている事があれば話し合い一緒に解決していくよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様と一緒に外出したり、面会があればゆっくと話が出来るように考えながら支援に努めている。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人一人を知りスタッフ同士で情報交換を行っている。利用者同士が、うまく付き合えるように職員が働きかけ、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後、ご家族の経過をフォローしたり、相談、支援についてどのようにして良いのか分からないので、出来ていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを把握できるようにコミュニケーションをしっかりとるように心がけている。難しい場合には、本人の思いに近づけるようにご家族に相談し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴など個人ファイルにて管理している。サービス利用の経過についてはご家族様と一緒に確認を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様のやりたい事や気持ちを大切に、ご家族からお聞きした趣味など大切に支援している。出来る所は時間をかけてやって頂いている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ひもときシートを利用したり、スタッフ全員で話し合いを行い、入居者の思いを考えながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ全員で、話し合い個人記録を見ながら問題点や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来る限り柔軟に対応できるようにスタッフ間のコミュニケーションをしっかりと行うように心がけサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	フルート演奏や、お化粧品ボランティアに月一回来て頂き、一人一人の活動を引き出せる様に、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の了承を得てかかりつけ医に往診して頂いている。往診による診察は隔週で行っている。(また体調不良時は診察も可能。電話での連絡は24時間取れるようになっている。)入所前からのかかりつけ医を継続するのも自由で、受診時に状況報告したり、往診時、看護職が立ち会うようにしている。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常生活で異常があればすぐに看護師に連絡している。看護師よりかかりつけ医に連絡してもらい、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がスムーズに出来る様、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や、終末期の在り方について、入所時の考えを本人、家族に説明している。必要時期になったら、本人家族の思いを汲みながら、地域関係者ともチームで取り組んでいく方針を持っている。現在行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えての訓練は徐々に行っているが、(AED使用法、救急蘇生法など)現時点で職員全員が実践力を備えているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防火訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えている。町内会と協定書を締結し協力を仰ぐ様にしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保			
--	--	------------------------	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の人格を尊重し、その人に合った声かけを行っているが、職員によってはうまく言葉かけが出来ていない事がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が本人が着る服を勝手に選んでしまっている。おやつの時間など、飲みたいものを選ぶときは本人がこたえやすいよう声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側のペースに合わせてしまし出来ない事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人が気に入った服を選んでもらえていない。月に1回お化粧品ボランティアの方に来て頂いている。美容院など本人希望で出かけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者が重症化しており、現在手伝える人が減ってきている為、行っていない。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人に合わせた水分量を決め、水分チェックを行っている。週1回体重測定をしており、食事形態も、入居者に合わせた食べ物にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず、口腔ケアをして頂いている。訪問歯科医による診察も受けている。自分で磨けない方については介助行い口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録などを見て、本人の排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を促し定期的な声かけ行い誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	看護師と相談しながら、服薬を行ったり、食事の栄養バランスを考えたり、運動の支援など、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一日間隔でゆっくり入浴出来る様に、支援している。本人の希望があれば毎日入ってもらう事もある。		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の体調に合わせて好きな時間にゆっくり休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の一覧表を作り、一人一人が服用している薬の理解をしている。薬の変更があった場合、連絡ノートで申し送り、状況把握を行っている。誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各月ごとの行事は行事担当が作成している。また、地域行事にも積極的に参加している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の盆踊り、ほたる狩り、平和公園千羽鶴寄贈など、普段は行けないような場所への外出支援なども行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物時には、本人に財布を持って頂き、金銭の支払いなど、自分で行ってもらう様、支援している。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在行っていない。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月、壁紙を作り入居者と言い所に季節を感じるよう工夫して作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファなどを設置して、入居者同士で会話が楽しめる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談し、馴染みの家具を配置するなどして、くつろげる空間を提供出来る様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーで安全な生活を送って頂ける様に、支援している。自分の部屋が分かる様に本人と一緒に表札を作っている。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもえぎ野

作成日 平成 26 年 8 月 5 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に出席される構成員の顔ぶれがあまり変わっていない。家族の参加についても、家族の代表が開所時から出てくださっている。その他の家族の意見が出てきていないのではないか。	年6回の運営推進会議に、半数の家族に参加してもらい、色々な意見を話してもらう場にしていきたい。	全家族に対して、運営推進会議の内容と趣旨を今一度説明し、参加を促す。出席したいと言われた家族に対して年間計画を立て出席してもらう。	3か月以内
2	15	職員一人ひとりが、季節や他の職員と重複しないようにメニューを考えているが、栄養などのバランスについては深く考えておらず、塩分や糖分など多く摂取しているのではないか。	職員一人ひとりが、食事の重要性を理解し、栄養バランスが取れた食事を提供する。	地域包括支援センターやボランティア団体などから栄養士に食事内容などを見てもらい、アドバイスを求める。そのアドバイスを会議などで共有し、献立に活かしていきたい。	6か月以内
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。